



ウィキペディア
フリー百科事典

メインページ
コミュニティ・ポータル
最近の出来事
新しいページ
最近の更新
おまかせ表示
練習用ページ
アップロード (ウィキメディア・コモンズ)

ヘルプ

ヘルプ
井戸端
お知らせ
バグの報告
寄付
ウィキペディアに関するお問い合わせ

印刷/書き出し

ブックの新規作成
PDF形式でダウンロード
印刷用バージョン

ツール

リンク元
関連ページの更新状況
ファイルをアップロード
特別ページ
この版への固定リンク
ページ情報
ウィキデータ項目
このページを引用

言語

リンクを追加

ページ ノート

閲覧 編集 履歴表示

江崎海陸運送

これはこのページの過去の版です。 **Esaki norihiro** (会話 | 投稿記録) による 2014年9月2日 (火) 00:00 (個人設定で未設定ならUTC) 時点の版であり、現在の版とは大きく異なる場合があります。

(差分) ← 古い版 | 最新版 (差分) | 新しい版 → (差分)

江崎海陸運送（えざきかいりくうんそう）は、長崎県西海市に本社を置く日本の海運会社。フェリーによる国内定期航路を運航している。

目次 [非表示]

- 沿革
- 航路
 - 2.1 大瀬戸・松島航路
- 船舶
 - 3.1 運航中の船舶
 - 3.1.1 フェリー
 - 3.2 かつて運航していた船舶
 - 3.3 フェリー
- 参考文献
- 外部リンク

沿革

- 939年 - 藤原純友の乱勃発。藤原純友は藤原北家の貴族。10代遡れば藤原鎌足公を始祖とする(藤原北家系図の画像検索結果参照)。日振島を本拠地に1000隻もの船団を有する海賊の首領として、朝廷に対し反旗を翻す。
- 941年 - 天慶4年5月、藤原純友の軍勢は博多湾に上陸。太宰府政庁を占拠後、火を放ち日振島へ逃走。橘遠保によって捕えられ斬首、首を晒された。一方、弟の藤原純乗率いる軍勢は、柳川の蒲池城へ攻撃を仕掛けますが、橘公頼、橘敏通に迎え討たれ、藤原純友の乱は終焉した。」（以上は「宰都の春〜藤原純友と宰都炎上〜」「橘公頼」）。藤原一族の敗走後のことは、分かっていませんが藤原純乗率いる軍勢を蒲池城で迎え撃った「橘公頼」をみると、「福岡県柳川市に伝わる伝承では、蒲池城は藤原純乗が築き、橘公頼は柳川城を築いて対抗したとされる。そこから、蒲池城に拠る蒲池の領主は藤原純乗の一族と伝えられているが、当時は柳川城はまだなく、橘公頼が子の橘敏通と共に藤原純乗を迎え撃ったのは蒲池城である。また、近隣一帯は、田尻氏など純友追討に功のあった大蔵春実の子孫が土着しており、藤原純友一族の子孫が勢力をもったとは見なしがた

江崎海陸運送株式会社

EZAKIKAIRIKUUNSOU CO.,LTD.

種類 株式会社

本社所在地 日本

〒857-2302

長崎県西海市大瀬戸町瀬戸壱浦郷162-3

設立 1917年5月

業種 海運業

事業内容 旅客定期航路事業、港湾運送業、自動車運送業

代表者 江崎 裕美子（代表取締役）

資本金 2500万円

外部リンク [1]

テンプレートを表示

い。蒲池の領主もまた藤原純友追討に功のあった橘公頼の子孫であり、鎌倉時代に嵯峨源氏の源久直（蒲池久直）が蒲池の地頭職となって赴任し、橘公頼の子孫の筑後橘氏の娘婿となり、その勢力を背景にして蒲池氏を名のる。」との記述もあり、柳川市西浜武（諸藤、長藤、沖田、浜武の地区よりなる）の諸藤、長藤に（蒲池城へ攻撃を仕掛け、橘 公頼、橘 敏通親子に迎え撃たれた）藤原純友・藤原純乗の一族が出自を地名に託して住み着いたという見方ができます。

2014年4月15日～6月8日まで、「華麗なる宮廷文化 近衛家の国宝」展が九州国立博物館において開催されています。出口のところで本が販売されていたので購入しました。タイトルは同じです。5ページの「陽明文庫の沿革」に、『道長より下ること五代、忠通（ただみち）（1097～1164）の次の代で二分する。忠通の嫡子基実（もとざね）（1143～66）及びその子基通（もとみち）（1160～1233）の流れに対し、三男兼実（かねざね）（1149～1207）の流れが分かれば立つ。前者は基通の邸宅が平安京の近衛大路室町にあって近衛殿と称し、のち代々がこれを伝領して居宅としたのでそれを家の名とした近衛家、後者も代々の居住の地名を取って九条家と呼ばれた。さらにその後二、三代の間に近衛家からは鷹司家が、九条家よりは二条・一条の両家が分かれた。これよりこの五家に限って摂政・関白の職を継承し得ることとなり、これを五つの摂関家、五摂家と称するのである』との記述がみられます。つまりこのことは、住んでいる地名を家名にしたと言っているのであり、西浜武の諸藤、長藤の地名は、藤原という家名を地名にしたとすることができるのです。

- **1159年** - 東寺百合文書(国宝)によれば、西浜武荘園、蒲池荘園、間荘園、田脇荘園、南浜武荘園などは京都のお寺「東寺（教王護国寺）」の荘園だった。（以上の文献は、「東寺百合文書 東寺百合文書WEB 百合文書を探す：西暦から 1159年 検索結果 宝荘殿院【京都白川の地に、九体丈六新阿弥陀堂を中心に建立された鳥羽上皇の御願寺。1132年長承1年建立だが、のち地震などで建物は壊焼、敷地だけが東寺領となった。】領荘園注文案の中に「筑後国三瀨庄」（フルサイズ画像3）という記載がある。紀氏のルーツ 20/34 ③1159「三瀨庄」、みやま市の農業の歴史、郷土 昭代の歴史年表 による）」
- **1917年** - 江崎 鶴松 福岡県柳川市西浜武諸藤848番地より西彼杵郡瀬戸町榎浦郷（現西海市大瀬戸町瀬戸榎浦郷）へ来る。
- **1917年** - 八女市（当時は福岡県三瀨郡三瀨町においても酒造りを行っていた）高橋商店 社長より、瀬戸町榎浦郷 田平酒店を紹介される。

田平酒店の岩永タガ様のご葬儀に(株)高橋商店 代表取締役社長 高橋 信郎氏が参列されていて、照弘と則博が直接社長より、鶴松が瀬戸に出てきた頃の様子を伺うことができました。鶴松が瀬戸に出てきた頃のこと、ご先祖様より聞かされていたとのこと。今でも、浜武からは杜氏さんに来てもらっていること。当時は、船倉の一番下に「城島瓦」を積み込んで、上に酒などの物資を積んで瀬戸港に入港したとのこと。お名刺を頂き、鶴松のお世話になったことのお礼を改めて申し上げ、照弘が手紙を添えて長崎特産の「かまぼこ」をお送りしたら、「繁耕」をお送りいただき、その手紙に（平成23年 2011年12月22日付け）、「八女の酒造所をお尋ねください。」と記されており、重ねて感謝した次第です。（現在は、(株)高橋商店 創業1717年 代表取締役社長 高橋 信郎氏）

- **1917年** - 浜武（西浜武、南浜武、古賀、吉原を浜武と呼ぶ）は、江戸時代より柳川杜氏の集落として有名。江崎醤油店を創業する。
- **1917年** - 柳川杜氏にかかる文献（西日本新聞 九州地酒奮戦 平成4年3月17日、ASAHI.COM 柳川杜氏 マイタウン佐賀 2006年2月15日）
- **1928年** - 江崎回漕店を始める。九州商船（社）肥前瀬戸港駅を始める。
- **1937年** - 江崎 鶴松 江崎海運を創業する。
- **1953年** - 江崎 鶴松 江崎石油店を創業する。現在の大瀬戸町瀬戸板浦郷（有）大菱石油（三代 鶴松の孫 大島 久）を松早石油の系列店として創業。
- **1970年** - 二代 江崎 務 江崎陸運を創業する。
- **1971年** - 二代 江崎 務（有）江崎海陸運送を創設。
- **1978年** - 電源開発(株)松島火力発電所 建設に伴う準備調査の段階から、海運・陸運共に建設資材等の輸送にかかわる。
- **1989年** - 三代 江崎 照弘（有）江崎海陸運送 代表取締役就任する。
- **1990年** - 三代 江崎 照弘（株）江崎海陸運送 代表取締役就任する。
- **1995年** - 江崎 務（株）江崎海陸運送 代表取締役就任する。
- **1996年** - 四代 江崎 裕美子（株）江崎海陸運送 代表取締役就任する。
- **2001年** - 池島航路より撤退する。
- **2004年** - 江崎 則博（鶴松 孫 江崎 務 二男） 2004年9月29日 長崎新聞で「西彼杵半島の魅力ホームページで紹介」と記事にされる。250枚に上る写真で西彼杵半島の美しい自然を、ロードマップと目的地までの距離や所要時間、トイレの有無などを記載した表も掲載して、西彼杵半島への観光やドライバーへの利便を図るとともに、地域の活性化をはかる。閲覧される方は、ホームページ「西彼杵半島（にしそのぎはんとう）」をご覧ください。また、長崎新聞社刊『環境問題を考える 地球・長崎』にも「水とごみ問題」について取材され、記事にされる。元長崎県職員。座右の銘 拓殖大学第12代総長 中曽根康弘先生（第71～73代内閣総理大臣）の言葉（総長講話より「何でも良いから、一つだけ人に負けないというものを持ちなさい。」）。三味線藤本会準師範 藤本 留則。
- **2009年** - 「第十一江崎」退役、「シャトル5号」就航。
- **2014年** - 4月中旬より、「江崎 則博」のホームページに「江崎グリコ」様が、宣伝を3件貼り付けてくださっていることに気付きました。江崎グリコの社長様より直接お伺いしたことではないということをお断りして、一言書き留めておきます。この宣伝が、貼り付けられたのは、則博が「1917年に江崎 鶴松が、柳川市西浜武諸藤848番地より長崎県西彼杵郡瀬戸町榎浦郷へ出てきた。」ことを沿革に書きこみをした後のことであり、それ以前の「江崎 則博」のホームページには一つも江崎グリコ様の宣伝は貼り付けられたことはありません。平成元年か2年頃、妹 江崎裕美子の夫（佐賀県出身）が、私に「江崎グリコの創業者一族も、西浜武の諸藤の出身」という話を聞いたことがあると聞かせてくれました。思えば、鶴松が、現在の西海市大瀬戸町に出てきて97年に成ります。私と両親が柳川市西浜武諸藤に西浜武847-1番地の江崎 福一さんを訪ねてお墓参りをさせていただいたのが、平成2年12月のことです。南浜武の椛島 練二様に仲介の労を取っていただいて、お墓参り・一族の顔合わせが実現したのです。その時、たまたま、鶴松のいとこの84歳の女性が、座に加わってくださり、「瀬戸

から鶴松が柳川に醤油のもろみ等の仕入れに来る時は、煮干しやわかめをお土産にもらった。」という話をしてくれたので、一同、一族という絆を確かめることができました。いとこの女性は、その4年後には、亡くなられましたので、柳川に出かけたのが、いかにも、ご先祖様が「早くお墓参りに来なさい。」「そうしないと、大瀬戸の江崎はご先祖様の供養もできなくなりますよ。」というサインを、私に送ったのではないかと思うようになったのです。いろいろな都合もあって、未だに、諸藤のご先祖様を訪ねることのできない方も多数おられることを思うと、ぎりぎりのチャンスに恵まれたことを感謝しております。また、諸藤の全ての江崎家のお墓のお参りも済ませることができました。6月26日に気付いたことです。「江崎海運」のホームページに江崎グリコ様が宣伝を沢山貼り付けてくださっています。

航路

西海市大瀬戸町と**松島**吉原港を結ぶ航路がある。かつて**長崎市****池島**航路が存在したが2001年に撤退した。

大瀬戸・松島航路

フェリー

以下、1日9便運航されている。

- 大瀬戸港 - **松島** (**西海市**)

船舶

運航中の船舶

フェリー

シャトル5号

かつて運航していた船舶

フェリー

参考文献

- 九州旅客船協会連合会 <http://kyushu-ships.com/publics/index/172/>

外部リンク

- [江崎海陸運送](#)



この項目は、**企業**に関連した**書きかけの項目**です。この項目を加筆・訂正などして下さる協力者を求めています（ウィ

キプロジェクト 経済)。

カテゴリ: 日本の海運業者 | 西海市の企業 | 長崎県の交通

テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。

[プライバシー・ポリシー](#) [ウィキペディアについて](#) [免責事項](#) [開発者](#) [Cookieに関する声明](#) [モバイルビュー](#)

